

10/27
福

消費税増税を強いながら国は75歳も過ぎた低所得者にさらなる負担を押し付けてきた。社会保障費に向けられるはずの増税分は、一体どこで道草を食っているのだろう。見直すべきせい肉が減らない▼後期高齢者医療の保険料軽減が16年度から段階的に廃止とい



つ。なくなる。年金80万円の単身者も計160万円の夫婦も月保険料が3倍超に増える。これだけで実は収まらぬ▼入院給食費1食200円アップ。日3食なら600円、月で1万8千円増だ。大病院外来を紹介状なしで訪れると定額負担も加算される。5千円か1万円かもしれない▼この際のように厚生労働省は、年金減額の前倒しもたまたぎ台に載せた。マクロ経済スライドの強化案というおまけ付きだ。最近の政策は「巧遅は拙速に如かず(吟味はいいから急いでやってくれ)」の感がする。だが巧妙に負担増を潜ませている▼「応分の負担」は響きがいいが、黄門様の印籠いんろうでもあるまいしこれをかざせば何でも通るわけではない。虎の子年金を年々削られ消費税は10%、公的負担も増え控除廃止に物価高騰では余生はおぼつかない▼小泉構造改革の流れで社会保障費の削減が大前提になった。何十年も前に分かっていた超高齢社会。備えを先送りしてきたツケが噴き出している。不満と批判を胸の内のため込む後期高齢者に今こそ応分負担の類被りは困る。